

## 〈動向〉

# 「難民問題への本学の取り組み－ 2015 年度－」

舟 木 讓

本『人権研究』前号の「動向」において、2007 年度より UNHCR 駐日事務所の協力のもと開始された難民推薦入試制度による難民奨学生の受け入れに伴ってこれまで本学が実施してきた「難民問題」啓発への取り組みを報告した。今年度も引き続き多くの方々、諸団体のご協力を得て、様々な取り組みを行う事ができた。以下に本年度実施された取り組みの概要を記すこととする。

最初に、2013 年度よりはじまった「Meal for Refugees」を今年度もこれまで同様本学に 2012 年度上記入試制度で入学した学生らが中心となり、実施する事が出来た。特にこれまで西宮上ヶ原キャンパスのみで実施していたが、今年度は本学生協のさらなる協力の下、神戸三田キャンパスでも実施する事ができた。その結果 2015 年 5 月 11 日－15 日ならびに 6 月 15 日－19 日の計 10 日間上ヶ原キャンパスの学食において、神戸三田キャンパスでは 2015 年 6 月 15 日－19 日の計 5 日間で両キャンパス合計 1,494 食の提供を行う事が出来た。

また本学の歴史を通じて、自校教育ならびに日本の近代化とキリスト教の関係、高等教育機関の置かれている（置かれてきた）現状を伝える目的で開講している「『関学』学」の春学期講義の一回を「難民」問題に関するゲストスピーカーによる内容として、「国連難民の日」である 6 月 20 日前後に 2013 年度より開講しているが、今年度も 2015 年 6 月 15 日に昨年度に引き続き本学の現状を良く理解していただいている田中志穂氏（特定 NPO 法人 難民支援協

会 広報部コーディネーター）をお招きして実施した。

2015 年度春学期に関しては、上述の企画ならびに講演会を実施したが、それと共に、昨年度、難民問題に関心のある本学在学学生からの要望と協力の申し出によって実現した「UNHCR 難民映画祭」の本学開催の継続企画として、今年度は「10 Th. UNHCR 難民映画祭」に「大学パートナーズ」として協力し下記のようなプログラムを実施した。今回も前同様今城大輔氏（UNHCR 難民映画祭プロジェクトマネージャー）をはじめ UNHCR 駐日事務所と難民支援協会の全面的なご協力をいただき、J-FUN ユース K.G に所属する学生らが大学と協力して実施した。また前回は 1 キャンパスのみでの上映にとどまったが、今回は西宮上ヶ原キャンパスにて二日と神戸三田キャンパス一日の計三日間にわたる上映を下記のように実施した。

### ・「10th.UNHCR 難民映画祭」

大学パートナーズ上映

主催：関西学院大学、J-FUN ユース K.G

協力：UNHCR 駐日事務所

実 施 日：2015 年 11 月 25 日（水） 11:10-12:40

開催場所：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス  
社会学部棟 101 教室

上映作品：「目を閉じれば、いつもそこに  
～故郷・私が愛したシリア～」

上映後、田中志穂氏（前述）によって「日本に逃れてきた難民について」と題した講演・解説が行われたのち、シャンカイさん（本学総合政策学部四年生・難民奨学生）による自らの体験についての講演が行われ、その後お二人によるトークセッションも実施された。

実施日：2015年11月26日(木)

11:10-12:40 ならびに 15:10-16:40

開催場所：関西学院大学 神戸三田キャンパス  
コモンズ シアター

上映作品：「目を閉じれば、いつもそこに  
～故郷・私が愛したシリア～」

実施日：2015年11月25日(水)

開催場所：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス  
図書館ホール

上映作品：「ボクシン・フォア・フリーダム」  
(11:00-12:30)  
「グッド・ライ～いちばん優しい嘘～」  
(13:00-16:00)

上映後、シャンカイさん（前述）による自らの体験についての講演が行われた。

以上の内容で実施され、3日で約400名近い来場者を数えることができた。また昨年度に続きこの開催を希望し積極的な行動を起こしてくれた学生諸君が、三日間で述べ20名の学生ボランティアとして集結し、準備から後片付けまで長時間にわたる熱心な働きをしてくれたことにより、次年度以降も継続して「映画祭」へ協力していく可能性が見出されたことは大きな喜びである。

さらに、今回、本学社会学部のご協力をいただき、映画祭開催週に「UNIQRO」と「UNHCR」が協力して実施している難民の方々に古着を届ける企画「1000万着のHELP」を実施し、「UNIQRO」の協力の下、古着の回収も行う事ができた。

さらに合わせて報告することとして以下の二点をあげておく。

一つは、2015年ヨーロッパにおいてこれまで以上の「難民」が大量に発生し、その受け入れをめぐる大きな混乱が起こっている事を受け、2014年4月よりUNHCR駐日事務所代表に就かれ、本学でも講演ならびに本学での「難民映画祭」実施にご尽力いただいたMichael Lindenbauer氏が急遽2015年11月末でブリュッセルに異動されることとなったことである。オーストリア大使館で10月29日に実施された送別会への案内が学長宛に届き、大学宗教主事が出席した。また、11月26日に国連大学 ウ・タント国際会議場で実施されたAntónio Guterres 国連難民高等弁務官による公開講義「寛容、多様性、そして連帯：世界的な人の強制移動への対応」ならびにレセプションに対しても学長への案内があり、こちらも大学宗教主事が出席し、いずれもこれまでの大学への協力の謝意を両氏に直接伝えることができた。

以上のように今年度も「難民問題」に関する様々な取り組みが行われてきたが、これまで以上に、常に難民当事者学生をはじめ、多くの学生諸君の協力があり、また日本ではその深刻さがなかなか伝わりにくいこの問題を、より効果的に広報し、理解と協力を深めるために知恵をしぼり、不断の働きをされている多くの方々の献身的なご努力があることを改めて知らしめられました。そしていつも適切なご教示・ご配慮によって今年度の企画が実現したことに心より感謝を申し上げ、今後も継続的な取り組みを行って行きたいという思いを込めて、今回の報告とさせていただきますと思います。